

平成28年度 事業報告書

- (1) 学校目標に基づく優先課題
- (2) 教育の充実
- (3) 学生募集
- (4) 学生支援
- (5) 就職支援
- (6) 要員・能力開発・組織編成
- (7) 施設・設備
- (8) 武蔵丘ネットワーク
- (9) 地域貢献

武蔵丘短期大学

《概要》

(1) 学校目標に基づく優先課題

学校目標 健康づくりについて、栄養と体育・スポーツに関する理論と実践を基礎とした健康生活のあり方を教授・研究し、もって豊かな教養と高い学識を備えた実践的指導者を養成する。また、自ら学ぶ積極性と探究心の涵養、学習意欲の向上、豊かな人間性の涵養を図るとともに地域社会の発展に寄与することを目標とする。

関係省庁及び地域社会との連携を図り、学長のガバナンスのもと、経営と教学の統合をめざした大学改革・教育改善を進めてきた。栄養士養成、教員・指導者養成、スポーツ振興等を図ると同時に、健康マネジメント専攻において、新たにホテル・ホスピタリティコース（平成 30 年度より）を設置する。

(2) 教育の充実

教育の質保証を維持し、その向上を図る努力を行ってきた。すなわち、「わかりやすい授業」を基調とし、きめの細かい教育指導を展開するほか、社会的自立に関する指導、各種資格取得の支援、地域連携による教育の充実を図ってきた。また、メンタル相談の充実を継続し、幅広い学生支援に努力してきた。

(3) 学生募集

当初の目標でもあった、高校訪問等を積極的に行った結果、オープンキャンパス参加人数も目標値をクリアできた。一方で、一般入試や社会人入試の受験生獲得に大きな課題が残った。この課題を再度、入試委員会で検証し、次年度に繋げたい。

(4) 学生支援

平成 25 年度から 4 年続けて 5 %以内を維持してきている。平成 28 年度の退学者の傾向としては進路変更が挙げられるが、どの退学者も単純な進路変更とは言えず、家庭の事情や就学意欲の低下、友人関係など複雑な理由が絡み、結果として就職や別の道への進学などに至っている。今後も、教務委員会が中心となり、欠席の状況を把握し、担任、事務職員、臨床心理士、医務室看護師など関係者との連携の上、退学を未然に防ぐように努めていく。

また、資格取得に向けての教育指導、課外活動の支援など、継続・実施してきた。

(5) 就職支援

就職希望者に対する目標就職率を達成するために、正課授業「社会環境とキャリア」「キャリアデザイン」を基に、進路支援委員を中心に担任との連携をとり、多岐にわたる支援を行い、就職希望者に対する就職率目標を達成することはできた。

一方で、多様化する学生を支援するために、プログラムの見直しを行っているが、それに伴う内容を教職員対象にFD・SD研修を実施することで、一貫した学生支援を行うことができると考えられる。

(6) 要員計画・能力開発・組織編成

平成28年度においては、教育の質保証及び世代交代を視野に人事異動（退職・採用）が行われた。健康マネジメント専攻においては、改革改善を検討し、新コースの設置を決定した。また、平成29年度からSDが義務化されることに伴い、その準備を行い、時代の要請である地域連携・教育センターやスポーツ推進のための一括管理組織の検討などを行ってきている。

(7) 施設・設備

安全対策及び環境対策（フロンガス規制、低炭素社会等）に配慮した修繕等を実施してきた。特に、熱中症予防として体育館空調設備について早急に検討し、その準備を進め工事計画を確定した（平成29年4月に設置）。

(8) 武蔵丘ネットワーク

同窓会とは学園祭や卒業式等でも連携を図り、卒業生ネットワークを充実させてきた。保護者（父母）との連携においては、保護者懇談会（入学式時）、保護者セミナー（1年次）、保護者会（2年次）等を実施し、相互の信頼及び協力関係を保持してきた。

(9) 地域貢献

吉見町・東松山市等との連携協定に基づき、健康づくり・食育・スポーツ等を通して地域貢献を継続してきた。また、地域社会におけるボランティア活動を持続的に行ってきた。さらに、地域の課題に関する公開講座、リカレント教育事業（社会人の学び直し）、子ども大学よしみ、そして教員の資質向上に資する免許状更新講習等も継続・実施してきた。

(1) 学校目標に基づく優先課題

①平成 28 年度学校目標

【武蔵丘短期大学教育目標】

本学は、人格教育、専門知識の習得、社会への貢献の基本理念のもと、次の目標達成を図る。

- 一、礼節を尊び、教養と情操豊かな人格を備えた人間性の養成
- 二、広い視野、深い思考力、豊かな表現力の養成
- 三、自分の進むべき道を切り拓く、自立心と創造力の養成
- 四、栄養と運動の両面から健康を支援する実践的指導者の育成

【専攻別の教育目的・教育目標】

○健康栄養専攻の教育目的・教育目標

a 教育目的

栄養士免許証、栄養教諭二種免許状の取得を主とした専攻として専門教科の充実に努め、健康生活を支援する実践的指導者を育成する。

b 教育目標

- ・健康な体と心を食から支える力を養う
- ・実験・実習で実践力・行動力を養う
- ・栄養の幅広い知識やスキルを身につけ、スポーツや健康についても学ぶ

○健康スポーツ専攻の教育目的・教育目標

a 教育目的

スポーツ文化の享受・伝承者として、正しい知識・技能を修得させ、健康生活を支える実践的指導者を育成する。

b 教育目標

- ・スポーツで心身を鍛え、社会に貢献する
- ・健康づくりの実践的指導者をめざす
- ・運動を安全に、楽しく継続するための手法を身につける

○健康マネジメント専攻の教育目的・教育目標

a 教育目的

食生活、運動、心の豊かさから、健康生活を総合的にマネジメントできる力を養成し、社会人力や起業力など実社会で役立つ能力を持った人材を育てる。

b 教育目標

- ・健康生活を幅広く学んで実践し、社会に貢献する力を養う

- ・健康な生活をプロデュースできる能力をはぐくむ
- ・社会のニーズに対応した健康ビジネスを起業できる人材を育成する

以上の教育目標を達成するために、教育の質的向上を図るとともに、経営的な視点を鑑み、管理運営の再構築を図り、教育研究と地域貢献のバランスを視野に入れて教学マネジメントの改善を図る。

② 同目標達成のための、平成 28 年度優先課題への取り組み

1) 大学ガバナンス改革及び教育の質保証の継続

平成 28 年度は、学長がリーダーシップを発揮しやすい体制づくりとして、副学長を交代する形で組織を整えた。その大学ガバナンスのもと、わかりやすい授業、きめ細かい丁寧な教育指導など、教育の充実・発展を図ってきた。また、教務上では、シラバスの改善を図り、「授業時間外（予習・復習）の学習」を明示し、教育の質保証を維持する努力を継続してきた。

2) 地域貢献への取り組み

吉見町との地域連携協定・東松山市との相互連携協定のもとで、健康づくり及び学習支援を軸として、健康体力測定、スリーデーマーチ、学生ボランティア活動など、さまざまな地域貢献活動を実施してきた。また、滑川町との連携協定による健康づくり、川島町における健康プロデュースなど、地域社会の発展に向けて寄与してきた。その他、公開講座、健康料理教室、健康弁当づくり、子ども大学よしみ、いきがい大学・きらめき市民大学への講師派遣なども、継続・実施してきた。

3) スポーツの振興

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けて、これまでと同様、スポーツ振興への寄与の一環として、強化クラブ（女子サッカー部、女子バレーボール部、女子バスケットボール部）の指導について、継続・充実を図ってきた。また、スポーツ庁の鈴木大地長官による武蔵丘スポーツクラブの視察が、平成 28 年 7 月 26 日に実施され、総合型地域スポーツクラブのあり方などの議論も行われた。その他、環境整備面において、体育館空調設備の設置について早急に検討し、平成 29 年 4 月上旬に工事することになった。

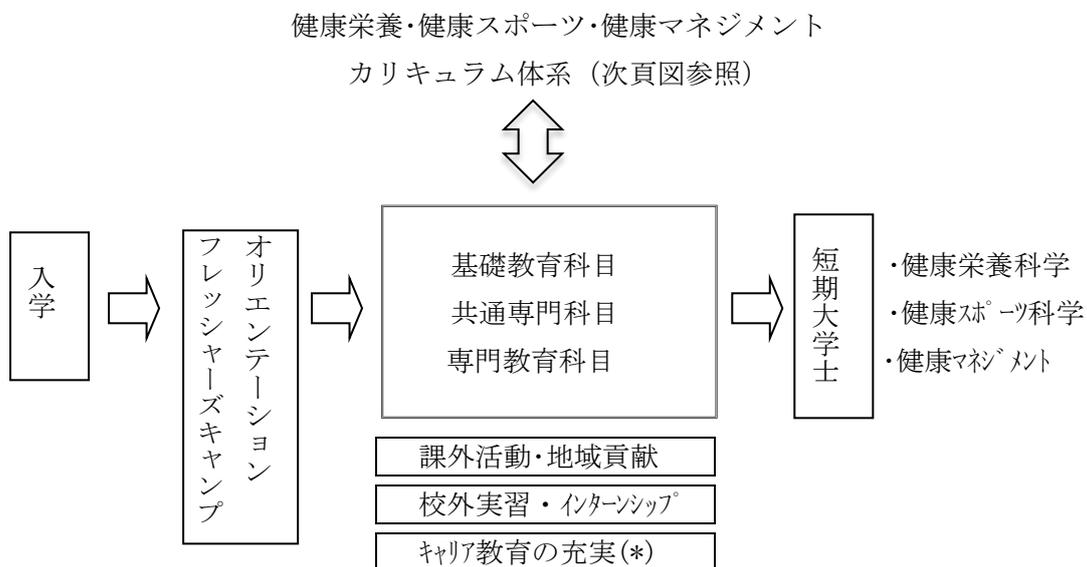
4) 経営基盤の安定化及び教育改革

学生募集の充実に向けて、従来からのオープンキャンパスに加えて、特別強化クラブの練習会などの新たな試みも実施した。また、学長のリーダーシップのもと、健康

マネジメント専攻の在り方について検討し、ビジネス系を重視した実践的な教育内容への改革、さらには、ホテル・ホスピタリティコース設置（平成30年度より）の決定を図った。

(2) 教育の充実

【三つの方針（DP・CP・AP）の実現】



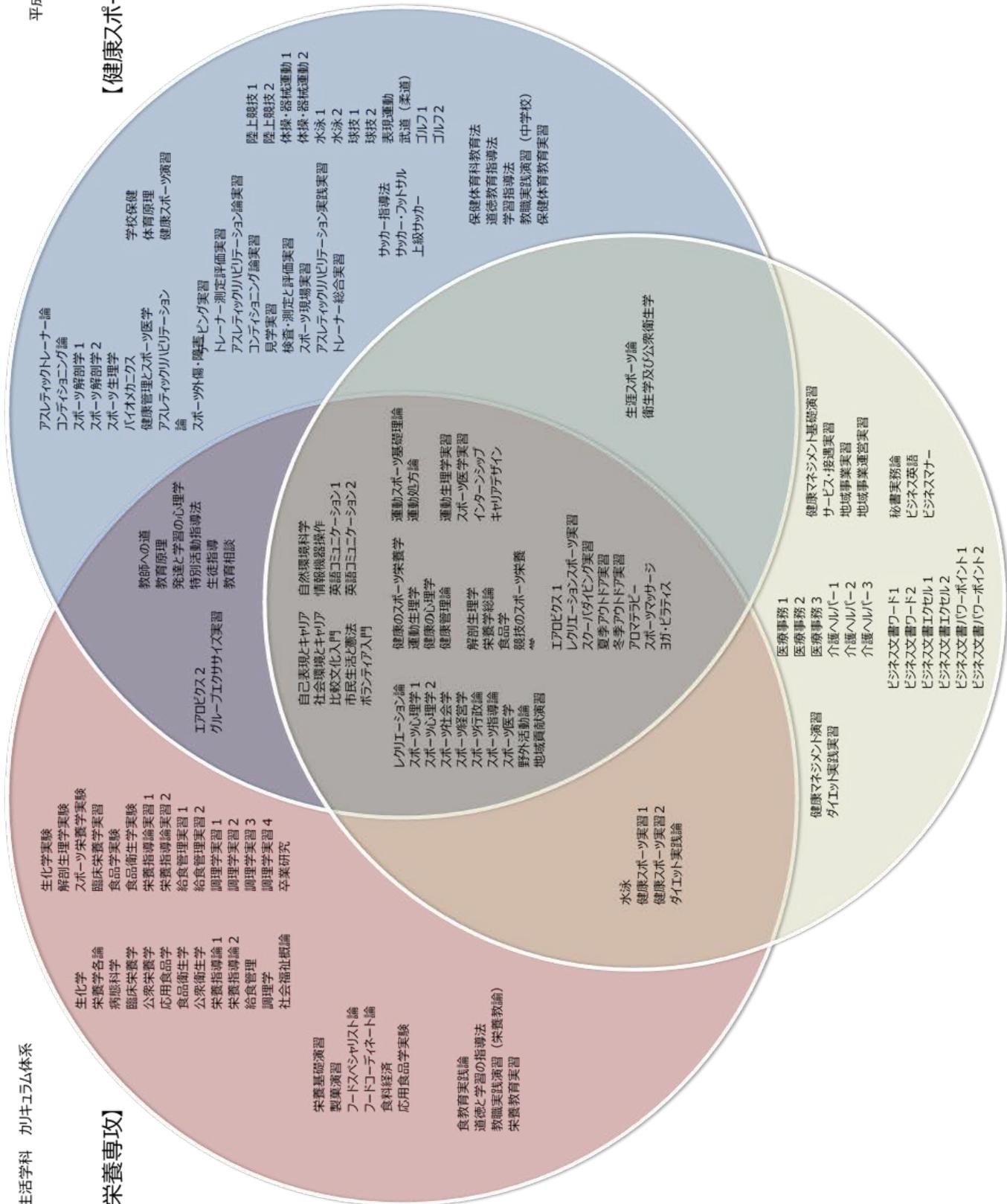
- 「学習到達度」の明示
- 「わかりやすい授業」
- 「実験・実習・実技等」の充実

「人格教育」 ⇒ 「専門知識の習得」 ⇒ 「社会への貢献」
<共通目標> 栄養と運動の両面から健康を支援する実践的指導者の育成

(*) ムサタン5C：「キャリアデザイン」「カウンセリング」「コミュニケーション」「クリエイティブシンキング」「コンピューター活用」の5つの観点を中心に全教職員が学生の進路支援にあたる。

【健康栄養専攻】

【健康スポーツ専攻】



【健康マネジメント専攻】

①教育の質の保証

3つの方針については、全学としての本格的な検討・改善が必要である。シラバスには、授業外時間の学習の提示を図ったが、今後、さらに明確化し、学習成果の獲得がわかるように改善していくことが求められている。また、カリキュラム体系でわかるように、健康をテーマとして、栄養、スポーツ、マネジメントという重要な要素を含んでいるが、教育の核となる人格教育をさらに充実させ、教育機関として総合的な成長戦略を策定する必要がある。教員個々では、さまざまな創意工夫を積み重ね、教育改善を図ってきているが、私立大学等総合改革支援事業の基準に沿った改革を図ることが急務である。

②きめの細かい教育指導

授業は、「わかりやすい授業」を心がけ、多様な学生に対応できるようにきめの細かい教育指導を心掛けた。一方、経済並びにメンタルな問題を抱える学生も少なからずおり、総合的な学生支援に力をいれた。また、可能な範囲で障がい者を受け入れる準備も進めてきた。それでも、まだ十分とはいえず、組織的な体制づくりと同時に、一人ひとりの教育力及びそのスキルの成熟が求められる。

③社会的・職業的自立に関する指導等の継続強化

教育課程の内外を通じて、社会的・職業的自立に向けた指導等に関して継続的に取り組んだ。栄養士及び学校教員として社会貢献できる人材、また、健康並びに運動・スポーツ施設、ホテル、サービス業などで活躍できる人材を育成してきた。

④各種資格試験の講習会等の支援

受験者を対象とした講習会及び試験対策講座の実施や個別の学習支援体制を強化し、合格率の向上を図った。ただし、合格率の低い難しい資格もあり、さらなる検討が必要である。

⑤臨床心理士によるメンタル相談等の充実

近年、心に問題を抱えた学生が増加しており、看護師や担任、職員らが、臨床心理士と連携を図りながら、メンタル相談の機会を増加する等の充実を図った。

⑥地域連携による教育の充実

吉見町及び東松山市との地域連携協定を土台に、骨密度測定・体力測定をはじめとする健康増進関連事業及び教育・学習支援における相互交流を深めると同時に、学生の教育に還元できる内容を検討した。

(3) 学生募集

①入学定員及び学生数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

専攻	修業 年限	入学 定員	入学 者数	収容 定員	平成 28 年度在籍者数		
					計	男	女
健康栄養専攻	2 年	80	69	160	161	13	148
健康スポーツ専攻	2 年	80	66	160	136	53	83
健康マネジメント専攻	2 年	40	5	80	9	1	8
計		200	140	400	306	67	239

②オープンキャンパス等歩留率

当初の事業目標でもあった、高校ガイダンスや会場相談会、高校訪問等を積極的に行った。特に高校訪問については、全教員が担当校を決めて、在学生や卒業生の報告を行い、学校説明やオープンキャンパス参加を促した。その結果、オープンキャンパス参加人数の目標をクリアできた。一方では、特に一般入試や社会人入試の受験生獲得に大きな課題が残った。この課題を再度、入試委員会で検証し、次年度に繋げたい。

(4) 学生支援

①退学率

平成 28 年度の退学率は目標値以内に留めることができ、平成 25 年度から 4 年続けて低い退学率を維持している。退学理由としては、進路変更、病気治療・療養、経済的な理由、その他であった。平成 28 年度の退学者の傾向としては、特に進路変更が挙げられるが、どの退学者も単純な進路変更とは言えず、家庭の事情や就学意欲の低下、友人関係など複雑な理由が絡み、結果として就職や別の道への進学などに至っている。

引続き、教務委員会が中心となり、欠席状況の配信を徹底して、退学を未然に防げるように努めていきたい。また、近年では精神的に不安定な学生が増えてきているように感じるので、臨床心理士、医務室看護師とも情報を密にして、できるだけ対応ができるよう検討していきたい。

②学生満足度

FD委員会を中心に平成 18 年度から行っている「学生による授業評価アンケート」により、それぞれの授業を 5 段階評価で数値化し、年度毎に比較することで、授業の改善、教育の質の保証に努めている。

平成 28 年度の集計結果は、平成 27 年度と比べると授業に対する学生の満足度はほぼ横ばいと言えるが、満足度は高評価と言える。この要因としては、平成 25 年度から各教員が集計結果を分析し、反省点や改善すべき点を教務課に提出することとしたため、各教員が文章にまとめることで授業の改善点等を改めて認識し、フィードバックを心掛けたことが挙げられる。

③資格取得

＜主に健康栄養専攻で取得できる資格＞

1) 栄養士免許証

「食」について専門的な知識を持ち、人々の健康維持のサポートをする資格であり、主に「給食管理」と「栄養指導」があり、現代人の健康に対しては、特に「栄養指導」についての受容が高まってきている免許証。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
栄養士免許証	83	80	96.4%

2) 栄養教諭二種免許状

新たに導入された教員免許制度であり、児童・生徒への食に関する指導や学校給食の管理などを行う教員免許。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
栄養教諭二種免許状	21	21	100.0%

3) フードスペシャリスト

日本フードスペシャリスト協会が認定する資格であり、官能評価・鑑別論、調理学、食物学など食に関する総合的・体系的な知識・技術を身につけ、豊かで安全なバランスのとれた食を提供できる知識を持つ食の専門職的な資格。

資格名	受験者数	合格者数	合格率
フードスペシャリスト	17	16	94.1%
専門フードスペシャリスト（食品開発）	3	2	66.7%
専門フードスペシャリスト（食品流通）	2	0	0.0%

4) 健康管理士一般指導員

NPO法人日本成人病予防協会が認定する資格であり、生活習慣病の原因やメカニズム、それを予防するためのメンタルヘルス、栄養、運動、環境などについて幅広く学習し、健康の保持・増進のための正しい知識を活かし、人々の健康を守るための資格。

資格名	受験者数	合格者数	合格率
健康管理士一般指導員	17	16	94.1%

5) NR・サプリメントアドバイザー

一般社団法人日本臨床栄養協会 サプリメントアドバイザー認定機構が認定する資格であり、消費者に対して保健機能食品及びサプリメントについて、専門的観点から個人の栄養状態を評価し、適切にアドバイスできるための資格。

資格名	受験者数	合格者数	合格率
NR・サプリメントアドバイザー	4	1	25.0%

<主に健康スポーツ専攻で取得できる資格>

1) 中学校教諭二種免許状（保健体育）

中学校の保健体育の教員免許状。短期大学で取得できる二種免許。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
中学校教諭二種免許状（保健体育）	25	25	100.0%

2) 公認アスレティックトレーナー修了証

公益財団法人日本体育協会が認定するATの受験資格が得られる修了証であり、スポーツドクター及びコーチとの緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、傷害予防、スポーツ外傷・障害の救急処置、アスレティックリハビリテーション及びトレー

ニング、コンディショニング等にあたるための資格。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
日本体育協会公認アスレティックトレーナー修了証	3	3	100.0%

3) 公認サッカーC級コーチ

公益財団法人日本サッカー協会が認定する資格であり、12歳以下の選手を対象としたサッカーの指導者になるためのライセンス。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
公認サッカーC級コーチ	10	10	100.0%

4) 障害者スポーツ指導者 初級スポーツ指導員

公益財団法人日本障害者スポーツ協会が認定する資格であり、地域で活動する指導者で、主に初めてスポーツに参加する障害者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者になるための資格。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
障害者スポーツ指導者 初級スポーツ指導員	0	0	—

5) レクリエーション・インストラクター

公益財団法人日本レクリエーション協会が認定する資格であり、余暇やレクリエーションに関する理論と実技の基本的な学習を積み、レクリエーションを楽しく教える指導者のための資格。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
レクリエーション・インストラクター	0	0	—

6) キャンプ・インストラクター

公益財団法人日本キャンプ協会が認定する資格であり、キャンパーとじかに接しながら、プログラム等の指導を行う役割を持った指導者になるための資格。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
キャンプ・インストラクター	2	2	100.0%

7) 子ども身体運動発達指導士（スポーツクラブ指導者）

公益財団法人日本スポーツクラブ協会が認定する資格であり、平成23年度から導入した。保育所、幼稚園、小学校低学年及びスポーツクラブにおける幼児・児童の運動感覚づくり、基礎的体力づくり及びコミュニケーション能力の向上に資する指導者になるための資格。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
子ども身体運動発達指導士	2	2	100.0%

8) 介護予防運動スペシャリスト（健康・体力づくり指導者）

公益財団法人日本スポーツクラブ協会が認定する資格であり、平成23年度から導入した。要介護者等（高齢者、障害者を含む）に対する介護予防運動の指導に携わるためのスペシャリスト資格。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
介護予防運動スペシャリスト	0	0	—

9) スポーツクラブインストラクター（スポーツクラブ指導者）

公益財団法人日本スポーツクラブ協会が認定する資格であり、平成23年度から導入した。スポーツクラブ等における運動指導者として総合的な専門知識を持ち、スポーツクラブの普及・育成に努めることを任務とする指導者になるための資格。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
スポーツクラブインストラクター	0	0	—

10) 中高老年期運動指導士（健康・体力づくり指導者）

公益財団法人日本スポーツクラブ協会が認定する資格であり、平成23年度から導入した。中高老年者の健康・体力の維持・増進に資する運動の指導者になるための資格。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
中高老年期運動指導士	0	0	—

<主に健康マネジメント専攻で取得できる資格>

1) 医療事務（保険請求事務技能検定試験）

日本医療事務協会が認定する資格であり、患者の対応から医療費の請求まで、専門スキルで医療と福祉に貢献するための資格。

資格名	受験者数	合格者数	取得率
保険請求事務技能検定試験	3	2	66.7%

2) 医事コンピュータ能力技能検定試験

日本医療事務協会が認定する資格であり、医療機関ではコンピュータによる会計システムが導入され、特に医療費の算定に関わる業務の操作スキルと会計システムに精通するための資格。

資格名	受験者数	合格者数	取得率
医事コンピュータ能力技能検定試験	2	1	50.0%

3) 調剤薬局事務（調剤報酬請求事務技能検定試験）

日本医療事務協会が認定する資格であり、処方せんの受付・保険証の確認から、処方せん内容をコンピュータに入力し、保険の種類に応じた患者様負担分を計算する

ための資格であり、女性の再就職や転職に大きな武器となる資格。

資格名	受験者数	合格者数	取得率
調剤報酬請求事務技能検定試験	1	1	100.0%

《すべての専攻で取得できる資格》

1) 健康運動実践指導者

公益財団法人健康・体力づくり事業財団が認定する資格であり、健康づくりのための運動指導者として、第2次国民健康づくり運動(アクティブ80ヘルスプラン)の一環を担い、自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者になるための資格。

資格名	受験者数	合格者数	取得率
健康運動実践指導者	33	9	27.3%

2) ピアヘルパー

NPO法人日本教育カウンセラー協会が認定する資格であり、カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際の場面で人とかかわるために必要な基本的な力を身につけた者になるための資格。

資格名	受験者数	合格者数	取得率
ピアヘルパー	4	2	50.0%

3) GFI (グループエクササイズフィットネスインストラクター)

公益財団法人日本フィットネス協会が認定する資格であり、幅広い年齢層で手軽に楽しめる健康づくりの運動として、エアロビクスを取り入れ、集団を一同に動かす指導力とパフォーマンス能力を持ち、グループエクササイズへの応用力が身につく、一生ものの資格。

資格名	受験者数	合格者数	取得率
ADI (エアロビックダンスエクササイズインストラクター)	14	14	100.0%
ADBI (エアロビックダンスエクササイズベーシックインストラクター)	1	1	100.0%
REBI (レジスタンスエクササイズベーシックインストラクター)	26	20	76.9%
SEBI (ストレッチングエクササイズベーシックインストラクター)	26	23	88.5%

4) 公認スポーツリーダー

公益財団法人日本体育協会が認定する資格であり、地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、スポーツ指導の基礎的知識を活かし、運営できるための資格。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
日本体育協会公認スポーツリーダー	73	73	100.0%

5) 公認スポーツ指導者 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ修了証

公益財団法人日本体育協会が認定する資格を取得するためには、共通科目と専門科目の受講が必要であり、その共通科目講座の受講が免除される修了証。取得する資格により、共通科目Ⅰ・ⅡとⅠ・Ⅱ・Ⅲに分けられている。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
共通科目Ⅰ・Ⅱ修了証	0	0	—
共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ修了証	9	9	100.0%

6) 公認アシスタントマネジャー

公益財団法人日本体育協会が認定する資格であり、総合型の地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ運営の基礎を学び、クラブの運営に携わっている方をお手伝いできるための資格。

資格名	志願者数	取得者数	取得率
日本体育協会公認アシスタントマネジャー	0	0	—

平成28年度においては、上記の29種類の免許、資格、修了証の他に、下記の資格が取得できるようになっている。

- ・スクーバダイビングCカード（オープンウォーター）
- ・人工心肺蘇生法（普通救命講習修了証）
- ・マナー・プロトコール検定

④課外活動

主な成績は、女子サッカー部「第25回全日本大学女子サッカー選手権大会 第4位」、女子バレーボール部「第51回全国私立短期大学体育大会 準優勝」「2016 関東大学女子バレーボール秋季リーグ戦 2部残留」、女子バスケットボール部「第51回全国私立短期大学体育大会 第3位」「2016 関東大学女子バレーボール秋季リーグ戦 3部残留」、男子バスケットボール部「第51回全国私立短期大学体育大会 準優勝」、テニス部「第51回全国私立短期大学体育大会 女子シングルス 第3位」、ハンドボール部「2016 関東学生ハンドボール春季・秋季リーグ戦女子2部Bブロック 準優勝」、男子サッカー部「第12回全日本フットサル選手権大会関東大会 ベスト8」、むさたん Kitchen 同好会「日本病態栄養学会学生レシピコンテスト全国大会 出場」等活発にサークル活動が行われ、好成績を収める結果となった。平成28年度団体登録一覧は別紙のとおりである。

(平成28年度 団体登録一覧)

	団体名	顧問名	代表者名	部員数	登録団体名
公認サークル	女子バレーボール	杉山 仁志 佐藤 亮輔	佐瀬 瑛理奈	17名	日本バレーボール協会/埼玉県バレーボール協会/全日本大学バレーボール連盟/関東大学バレーボール連盟/埼玉県大学バレーボール連盟
	女子サッカー	佐久間 淳 田本 育代	村社 汐理	23名	全日本大学女子サッカー連盟/関東大学女子サッカー連盟/公益財団法人日本サッカー連盟
	男子サッカー	佐久間 淳	小野崎 秀	16名	埼玉県フットサル連盟
	女子バスケットボール	山村 伸	神山 凧沙	20名	関東大学女子バスケットボール連盟
	男子バスケットボール	鈴木 宏	本木 宏輔	21名	
	軟式野球	茗荷 尚史	竹田 直樹	13名	東松山市野球連盟/吉見町野球連盟
	陸上競技	松枝 茂樹	喜多 秀平	8名	埼玉県陸上競技協会
	バドミントン	岡崎 英規	多田 恵子	9名	
	水泳	太田 あや子	岡田 華奈	12名	日本水泳連盟学生委員会
	エアロビクス	太田 あや子	藤賀 華澄	6名	公益社団法人日本エアロビクス連盟
	ハンドボール	高橋 琴美	川崎 紗也佳	7名	全日本学生ハンドボール連盟/関東学生ハンドボール連盟/日本ハンドボール協会/埼玉県ハンドボール協会
	クッキング for アスリート	小河原 佳子	鈴木 はるな	9名	
	ライフセービング	太田 あや子	飯嶋 莉央	5名	JLA 日本ライフセービング協会学生部
トマトクラブ	長島 洋介	中山 礼奈	16名		
同好会	テニス	小坂 由美子	渡辺 樹	11名	
	アスレティックトレーナー	荒川 崇	坂井 みずき	6名	
	ダンス	玉木 啓一	齊木 花音	6名	2015.5同好会に昇格
	O.A.P.	福島 邦男	松本 奈々	7名	
	ゴルフ	植松 大介	中村 幹男	13名	
	むさたんKitchen	島野 僚子	小鹿野 愛美	11名	2016.5同好会へ昇格
	フットサル	福島 邦男		-名	
	女子ソフトボール	浅香 清美		-名	
非公認サークル 愛好会	スクーバダイビング	太田あや子	志田 悠理子	8名	
	卓球	植松 大介	横田 隼人	2名	
	チア愛好会	田本 育代	島崎 春香	6名	
	軽音楽	長島 洋介	富樫 瑞季	7名	
	バレーボール愛好会	玉木 啓一	白石 和希	17名	
	Hip Hop			-名	
	新体操・体操			-名	

(5) 就職支援

①就職率

専攻	修業年限	平成 27 年度					平成 28 年度				
		卒業者	就職希望者		進学・その他	就職率	卒業者	就職希望者		進学・その他	就職率
			就職者	未決定				就職者	未決定		
健康栄養専攻	2年	84	75	2	7	97.4%	88	76	1	11	98.7%
健康スポーツ専攻	2年	63	50	1	12	98.0%	68	52	1	15	98.1%
健康マネジメント専攻	2年	5	5	0	0	100.0%	3	3	0	0	100.0%
計		152	130	3	19	97.7%	159	131	2	26	98.5%

* 就職希望者＝就職者＋未決定

* 就職率(%)＝就職者÷就職希望者

平成 28 年度においても、進路支援委員及びスチューデントサポート課進路支援担当を中心に教職員一丸となり、キャリア指導並びに個別相談、担任との連携を密に、全学的に進路支援に努めてきた。

また、地方出身者や専門分野外の就職希望者に対しては、ハローワーク東松山と連携して、学内における相談や情報の提供など年間を通して行うことができた。ハローワーク東松山とは、平成 26 年度に「就職活動支援に関する協定書」を締結している。さらに、福島県とは、「ふるさと支援就職情報センター」と連携し福島出身者に対する支援を行っている。栃木県とは、平成 27 年度に「就職促進協定書」を締結し、栃木県出身者に対する支援の強化に取り組んでいる。

その結果、平成 28 年度卒業生の就職希望者に対する就職率は、98.5%で目標を達成することができた。

その他の進路としては、編入学 10 人、専門学校への進学 1 名、各種学校 1 名、科目等履修生 1 名、就職希望せず 10 人、アルバイト 4 人である。

今後の進路支援を行うために、2 年生のキャリアデザインの授業を有効に活用し、履歴書作成セミナーから、就職活動のマナー、メイクアップ講座、企業説明会などを積極的に実施し、就職に繋げていきたいと考えている。今年度においても、就職希望者であれば就職できない状況ではないが、少しでも学生の希望に即した就職活動ができるよう

支援していきたい。就職を希望しない学生の状況は、主婦業に専念するといったケースが目立った。他には、保護者が本人任せにしていることも要因と考えられる。

今後の課題については、研修会等に参加しても毎回課題に挙げられているが、就職活動に積極的になれない学生をどのように指導していくかである。今後も引き続き、日本私立短期大学協会や埼玉県私立短期大学協会の研修会に参加し、他大学の指導法の情報収集などを行い、本学に即した支援を行いたいと考えている。

②就職先

平成 28 年度の状況としては、早期からの就職活動が活発であったが、夏休み以降は例年になく就職内定状況が低い状況であった。それでも後半には活発になり、三専攻共に専門分野及び専門分野を活かした就職先が目立った。

健康栄養専攻では、給食施設、福祉施設、保育園、病院等を中心に、栄養士資格を活かした専門職が主体である。その他、スポーツ施設でのインストラクターをはじめ、専門知識と技術を活かした企業から一般企業まで幅広く活躍している。業界別としては、給食施設 42 人、保育園 6 人、フードサービス 6 人、福祉施設 5 人、小売業 4 人、医療 2 人、保健衛生 2 人、臨時採用教員 2 人、その他、食品製造業、専門学校職員、警備、運送業、情報サービス業、サービス業にそれぞれ就職した。進学としては、編入学者 4 人、専門学校進学者 1 人であった。

健康スポーツ専攻では、スポーツジムやスポーツクラブのインストラクター、トレーナーとして、運動指導・健康づくり業務が主体である。さらには取得資格やスキルを活かし、福祉施設での介護・リハビリ業務から一般企業まで活躍の場を広げている。業界別としては、スポーツクラブ 11 人、サービス業 6 人、臨時採用教員 5 人、製造業 5 人、小売業 4 人、福祉・介護事業 3 人、保健衛生 3 人、ホテル業 3 人、幼児体育 2 人、学童保育 2 人、警備 2 人、学習支援事業 2 人、その他建設業、情報サービス業にそれぞれ就職した。進学としては、編入学者 6 人、各種学校 1 人である。

健康マネジメント専攻では、専門的な知識を習得することで、病院における医療事務、健康ビジネス、栄養や運動の知識を持った介護予防、人に癒しを提供するセラピスト、食と運動の総合的な理論をもとに美を実践する分野等を中心に、幅広く活躍の場が広がっている。今年度の就職状況は、クリニックにおける医療事務、ホテルにおけるサービス、フードサービス業における営業にそれぞれ就職した。

③説明会・セミナー・面接指導等

平成 28 年度においては、新規に行った事業は特にないが、学内における企業説明会を少しでも多く実施したいと計画をした。

2 年生対象に前学期の「キャリアデザイン」の授業において、学生の希望分野を考慮し企業説明会を計画し実施した。4 月に幼児体育、5 月に医療業（栄養士）、6 月にリラクゼーション、7 月にフードサービス、自衛隊、給食施設、女性専用スポーツ施設を実施。個人的な対応として、1 月に接骨院を実施した。

1 年生対象に後学期の「社会環境とキャリア」の授業において、栄養士・スポーツ分野で企業研究セミナーを実施した。1 月に給食施設、スポーツクラブ、2 月に給食施設 5 社、合計 15 社の企業説明会を実施し就職活動に備えた。

平成 29 年度においても、健康スポーツ専攻、健康マネジメント専攻を中心に「キャリアデザイン」の授業で希望を調査し、今年度同様に学生のニーズに応え企業説明会を実施する予定でいる。

(6) 要員・能力開発・組織編成

①教員数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

	常勤教員等			非常勤 教員	事務 職員
	学長	教員	計		
男性	1	16	17	15	8
女性		9	9	12	6
合計	1	25	26	27	14

* 事務職員と准教授を兼任している 1 名を「事務職員」として計上しており、また学校法人基礎調査(日本私立学校振興・共済事業団)では報告していない事務職員を計上しているため、同調査の報告数とは異なります。

②要員

本学では、研究業績のみならず、教育力や指導力のある教員を揃えてきている。また、教員免許をはじめ、多様な資格取得の指導ができる体制を整えている。教員の年齢及び男女比についてもバランスを考慮してきている。強みとしては、一般的な栄養士養成に加え、スポーツ栄養関連の教育が特徴的である。また、地域社会における健康増進に関わる活動（体力測定、スリーデーマーチ、健康弁当づくりなど）は好評を博した。また、課外活動の指導も熱心であり、特に、女子サッカー、女子バレーボール、女子バスケットボールは高レベルを維持してきた。

③能力開発

一般的な「教育の質の向上」等をめざし、学長が理事を務める埼玉県私立短期大学協会主催の「教職員研修会」に積極的に参画し（平成 28 年 8 月 26 日）、教員・職員合わせて 6 名が参加した。

事務職員の質的向上をめざし、事務職員としてのスキルアップを図ることを目的に、日本私立短期大学協会の主催する各種研修会に参加した。SDの一環として、持ち回りでの担当職員による朝礼については、継続・実施してきている。

④組織編成

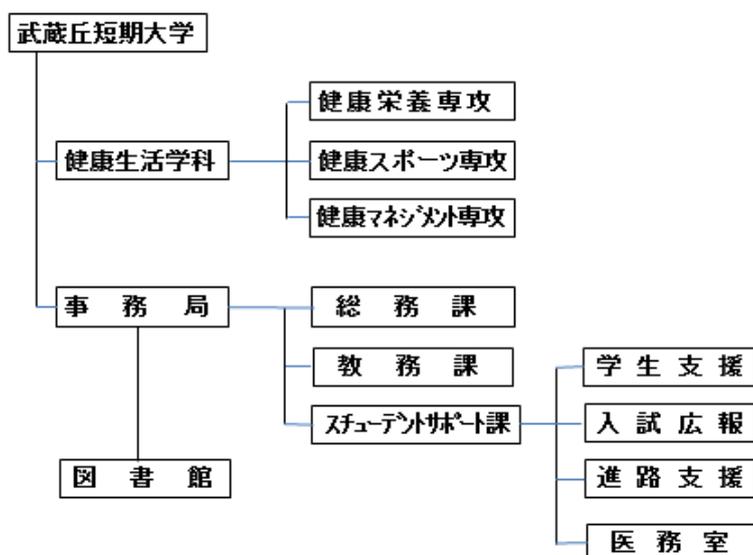
平成 28 年度の組織図は、昨年度と同様、次のとおりである。原則として、定例教授会は第 3 木曜日に開催され、委員長会議および各専攻会議は第 3 月曜日に実施されてきた。委員会は、教務委員会、学生委員会、入試委員会、進路支援委員会、図書委員会、予算・

施設機器委員会、教職課程委員会、公開講座等実施委員会、自己点検・評価委員会、情報システム委員会、研究倫理委員会、ハラスメント委員会、FD・SD委員会、防火防災委員会、地域連携推進委員会、研究費不正防止委員会がそれぞれ活動してきた。その他、教員の採用・昇格などの必要に応じて、教員人事選考委員会が設置された。また、平成29年度にスリーデーマーチの40回大会が開催されるにあたり、スリーデーマーチ委員会が設置された。ただし、教職員の人数に対して、委員会数が非常に多くなっており、合理的・効率的な組織統合などが課題となっている。

また、健康マネジメント専攻の展望について、教授会、理事会の承認を得て、ホテル・ホスピタリティコースの設置（平成30年度より）が決定した。

なお、私立大学等総合改革支援事業の申請に向けて、地域連携・教育センターやIR推進室（仮称）の設置などは、専任の職員の問題と合わせて課題事項である。

また、時代の要請より、スポーツ推進のための一括管理を行う組織の必要性も生じている。



(7) 施設・設備

①平成 28 年度に营造・修繕・購入等を行った施設・設備

時 期	場 所 ・ 内 容 ・ 目 的
平成 28 年 7 月	場所：1209、1303、1304、2201、2209 教室 内容：エアコン室内機ドレンパン清掃作業
平成 28 年 7 月	場所：校舎廊下、事務局内 内容：消防設備改修工事
平成 28 年 7 月	場所：調理実習室 1・2 内容：レンジフード及びダクト清掃
平成 28 年 8 月	場所：トレーニングルーム 内容：LED照明交換工事
平成 28 年 8 月	場所：体育館東側通路 内容：受水槽及び消火水槽天板塗装工事
平成 29 年 1 月	場所：体育館 内容：バスケットゴールの耐震補強工事
平成 29 年 2 月	場所：体育館 内容：カーテンレール修繕
平成 29 年 2 月	場所：給食管理実習室他各実習室 内容：前年度の保守点検における修繕
平成 29 年 2 月	場所：体育館男女シャワー室 内容：シャワーのサーモスタット部品の交換
平成 29 年 2 月	場所：校舎廊下、消火栓ポンプ室 内容：消防設備改修工事
平成 29 年 2 月	場所：食堂厨房購入 内容：ガスレンジ購入
平成 29 年 2 月	場所：グラウンドテニス倉庫 内容：転圧ローラーのエンジン交換

(8) 武蔵丘ネットワーク

①卒業生との連携

平成 28 年 11 月 13 日（学園祭の 2 日目）には、同窓会総会が開催され、卒業生が集まった。同窓会との連携を図り、卒業生とのネットワークを拡大するため、卒業式で同窓会会長の挨拶を入れ、卒業記念パーティでも交流を図るなどの努力をしてきている。

②父母との連携

入学式（平成 28 年 4 月 5 日）の後に、専攻ごとに保護者懇談会を実施し、保護者との連携を図ってきている。平成 28 年度は約 8 割の保護者が参加した。

また、前年度同様に 3 専攻合同で保護者会を実施した。平成 28 年 6 月 4 日には、2 年生の保護者を対象とした保護者会を実施した。ここでは、健康栄養専攻の 2 年生が調理学実習の授業の一環でつくった料理を保護者に提供した。その後、全体会、クラス担任による個人面談等を行った。プラス面として、教員と保護者との懇親の場が設けられ、相互交流が深まった。

平成 29 年 2 月 17 日には、1 年生の保護者を対象とし、保護者セミナー（保護者向け就職支援セミナー）を開催した。ここでは、全体会として、学生生活及び進路に係る現状等を説明した後、ハローワーク東松山所長の安岡良浩氏による講演を開催した。その後、懇親会を実施し、希望者には個別相談を行った。近年、就職状況が変化し、世代間ギャップが指摘される中で、保護者の現状に対する理解が深まった。

(9) 地域貢献

①連携協定等に基づく地域貢献

吉見町との地域連携協定のもと、NPO法人武蔵丘スポーツクラブの協力を得て、「体力測定」「子ども水泳教室」など、学生の教育と同時に地域の活性化に寄与してきている。また、東松山市との相互連携協定のもと、「スリーデーマーチ」を含み、健康増進活動に貢献してきている。さらに、滑川町との相互連携協定のもと、健康づくりに関する助言等を行ってきている。

また、埼玉県との連携協定の中で開放授業講座（リカレント教育事業）の実施、公益財団法人いきいき埼玉との連携事業「彩の国いきがい大学」のカリキュラム編成及び講師派遣等も継続して行ってきた。

なお、吉見町とは、平成28年3月30日に、「災害時における協力体制に関する協定」を締結し、災害時において町が行う救援活動に際し、グラウンド・体育館等の施設の提供や学生ボランティアの派遣協力などを行うこととしている。

②公開講座の実施

平成28年度武蔵丘短期大学公開講座「よりよい健康生活をめざして～栄養と運動から健康をマネジメントする～」を次の日程で実施した。受講者は地域の高齢者が多く、アンケートの結果からも満足度が高かったといえる。

参加希望者は43名で、3日間でのべ126名が参加した。

平成28年10月8日(土)	岡崎英規准教授、木元泰子助手
平成28年10月29日(土)	高谷典秀客員教授、佐藤亮輔講師
平成28年11月12日(土)	大山光一先生(登山家)

③子ども大学よしみの実施

吉見町教育委員会、吉見町商工会と連携し、子ども(吉見町内小学校4～6年を対象とする)の好奇心等を刺激する学びの機会を次の日程で提供し、吉見町の小学生14名の応募があった。

平成28年10月16日(日)	武蔵丘短期大学 福島邦男准教授
平成28年10月23日(日)	吉見町教育委員会 太田賢一先生
平成28年11月13日(土)	埼玉県福祉教育推進員 山崎幸雄先生
平成28年12月11日(日)	武蔵丘短期大学 小坂由美子講師

④免許状更新講習の実施

平成 21 年 4 月から教員免許更新制が導入され、教職課程の認定校である本学において、平成 28 年度にも引き続き実施した。

<免許状更新講習の受講者数と累計者数>

年度	受講者 実人数	必修選択	開設 講座数	受講者数		不認定 者数
					埼玉県内の学校に 勤務している方	
平成 28 年度	147	必修	1 講座	134	129 (96.0%)	0
		選択必修	2 講座	131	126 (96.0%)	0
		選択	8 講座	391	369 (94.0%)	0
累計	745	必修	8 講座	791	766 (97.0%)	0
		選択必修	2 講座	131	126 (96.0%)	0
		選択	52 講座	2,301	2,210 (96.0%)	1

※選択講習の受講者数は、累計であり、1人が選択講習を3講座受講した場合は3人で計上している。

平成 28 年度は 8 月 8 日（月）～12 日（金）の 5 日間で免許状更新講習を実施し、定員を上回る申込みがあった。近隣の小中学校をはじめ、県内の高等学校から多くの先生方が受講され、それぞれの免許を更新された。また、川合学長の教え子が受講対象の時期を迎えたため、愛媛県、香川県、愛知県や山梨県などからの申込みがあった。また、平成 28 年度からは新たに選択必修領域が設けられ、本学では 2 講座の選択必修領域を開講した。本学の免許状更新講習の評価は高く、例年、申込者数が定員を上回っている。

多数の申込みを得られた背景には、川合学長の企画で、学校法人後藤学園の中村理事をはじめ武蔵野調理師専門学校の教職員等に協力を要請し、例年大好評を得ている昼食会の実施がある。それに加え、教職課程委員会において、更新講習の内容や講習の開講順にも工夫を加えたことにより、受講された先生方からは多くの高い評価を得ることができた。